

加美町グリーンツーリズム体験

11月10・11日、加美町（かみまち）で、私たちは農村体験・民泊のグリーンツーリズムを体験しました。

加美町グリーンツーリズム推進会議から、加美町のグリーンツーリズムをもっとよくする為に、大学生の意見を聞きたいと、ゼミの元に依頼がありました。私たちは、少しでも加美町グリーンツーリズムの発展に貢献したいという思いから、参加しました。

加美町は、宮城県北西部に位置し、北部・西部・南部が、丘陵地になっており、日本有数の穀倉地帯の大崎平野の一角を占めている自然豊かな町です。

私は親が兼業農家で、お米を収穫することはあっても、畑に実っている状態の野菜を見る事も収穫するのあまり体験した事はありませんでした。見るのも、収穫するのとても新鮮でした。

ごぼうの収穫をしました。約1mの穴に入り、ごぼうを抜いていくのですが、太いものは、両手を使うほど、とても力のいる作業でした。4うね分を6人で、収穫したのですが、いつもなら80歳くらいのおばあさん1人で、収穫されていると聞き、驚きました。

長芋の見た目は、とても硬そうですが、とても折れやすく、長芋全体が見えるまで掘らないと収穫できませんでした。掘り終えるまでに折れてしまうこともあり、繊細なスコップ操作が必要で、ごぼう収穫とは、違う大変さのある作業でした。

午後からの作業は2班に別れ、それぞれのホームステイ先の農家の方の農作業をお手伝いしました。私たちは、兼業農家の佐々木さんのお世話になりました。

柿収穫を行いました。柿収穫では、高枝切りばさみを使って行いました。手作業ではなく、道具を使つての作業だったので、少しは楽かとおもいましたが、腕をずっとあげていなければならなかったため、作業を終えた頃には、肩に重りをのせている様でした。

1日目の作業を終えてみると、どっと全身にある疲れと共に、疲れを忘れるくらいの充実感を感じることができました。農家の方は、毎日この疲れを感じていると思うと大変さが伝わってきました。

ホームステイ先の佐々木さんの家族は、佐々木さん夫妻、息子夫妻、お孫さん3人の三世代7人家族で、とて

加美町グリーンツーリズム推進会議

- ・平成8年4月設立
- ・「農家が主役」をテーマに農家が積極的活動
- ・中学生の民泊体験学習・小学生の宿泊型体験学習などの活動で年間500～600人の方の受け入れ
- ・平成20年に子ども農山漁村交流プロジェクト事業の受け入れ体制整備モデル地区に指定

体験日程 民泊型農家体験

11/10	午前	ごぼう・長芋収穫
	午後	ごぼう・柿収穫
11/11	午前	大根・かぶ収穫 大根干し

もにぎやかで、あたたかい家庭でした。

晩御飯の時に、飲んだビールは、これまでで一番おいしかったです。そのビールよりおいしかったのが収穫したごぼうを使ったごぼうチップでした。自分達で収穫したためか、お店で売られているものよりおいしく感じました。ごぼうチップとビールの組み合わせは、言葉にならないくらい最高でした。

自分で収穫したものをおつまみにしたり、食べたりできる事は、農業の楽しさ・喜びのひとつだと感じました。

晩御飯も終わり、お風呂に入った時の一日中汗をかきながら農作業をして、疲れきった全身が癒される感覚は、今でも忘れることができません。この日はもちろんぐっすり眠ることができました。

2日目は朝7時から大根・かぶを収穫し、収穫し終えた大根を漬物用に水で洗い、干す作業を行いました。

大根を洗う作業は、大根が70～80本あり、すべての大根を手作業で水を使って洗い、手の感覚がなくなるくらい冷たかったです。この日の作業では、腰の痛みや水の冷たさで農業の辛さの方を多く感じました。

2日間の農作業を終えて、今までは、ただ単に、農業って重労働で大変そうだなという考えでした。しかし、加美町グリーンツーリズムに参加し、農業のほんの一部を体験しただけですが、農業をする事で味わえる楽しさ・喜び、そして、つらさを感じることができました。

農家の方のお手伝いをした時には、若い人に来てもらってほんとに助かったと言ってもらえました。一緒に食事をした時には、中学生や小学生を受け入れている時とは違い、一緒にお酒を飲めたり、共通の話題で盛り上がることができて楽しかったと言っていました。

一方、親が兼業農家の私でも農業や自然とふれあい新たな知識や体験を得ることができました。

知識はあっても実体験がとぼしい小・中学生が、グリーンツーリズムの体験から、生きた知識を得ることができます。また食への理解が深まると思います。

そして、過疎化・高齢化・後継者不足などで、活気がなくなっている農村にとって、グリーンツーリズムを行なうことで、人を呼び込むことができ、町の活性化につながると思います。参加する側、受け入れを行う町、両者にとってグリーンツーリズムは、プラスの影響をもたらすものだと思います。

（永田清龍、松原明広、佐藤良輔）



ごぼうの収穫

ほえ～るかふえで考える石巻の未来

12月15日(土)、私たち石巻専修大学生三人(吉城、菊池、金津)は、宮城から東京へと向かいました。

日本計画行政学会大震災復興支援特別研究チーム「社会貢献プラットフォーム」が中心に企画し、東洋学園大学を会場にした、「熟議カフェ」別名「ほえ～るかふえ in とうきょう」に参加するためです。

このイベントのねらいは、復興につながる知識や問題点を学び、そこから解決へのヒントを見つけることにありました。またこの「ほえ～るかふえ」は東日本大震災後、昨年から今年にかけて2回、石巻市で開催された「かふえ」の第3回目で、初めての東京開催になります。

「ほえ～る」という名前は、石巻がかつて捕鯨基地として栄えたことに由来するクジラの「whale=ホエール」と、参加学生がしっかりと意見を「吠える」ことをめざしているため、両者の意味をかけて付けられています。

今回は、「ほえ～るかふえ in とうきょう」として、私たちが東京へ行き、被災地側からのリアルな情報を提供すると共に、石巻と東京の相互訪問を実現することを目的に行われました。これまで2回の「かふえ」で培った交流と震災復興への取り組みをさらに深化させることを目指していました。

15日は第1部で星野信夫国分寺市長の講演、復興に携わるNPO法人、教員らのパネルディスカッションと総合討議、第2部で東洋学園大学と石巻専修大学教員のミニ講義、東洋学園大学の生徒と私たち石巻専修大学学生の意見交換等が行われました。様々な視点から石巻の今後の復興と発展を考えました。

第1部の星野国分寺市長講演「歴史のつながりによる地域間連携：自治体の役割」とパネルディスカッションでは、街の発展と復興を行うためにはその街の歴史を知る事が大事であると私は思いました。

また第2部では、東洋学園大学人文学部の阿部一教授のミニ講義を受けました、東日本大震災と日本人・日本文化をテーマに、日本人の性質と文化について教えていただきました。続いて石巻専修大学の先生から、石巻の産業の特徴を紹介するミニ講義が行われました。

そして、その後の「ほえ～るかふえ」では、参加学生が数人のグループに分かれ話し合い、出た意見を紙にまとめそれを並べ、出た意見を種類ごとに分別し熟考する形式がとられました。

私は、東京の学生の人たちはまだ石巻がほとんど被災後のままだと思っている人が多い事に驚きました。実際には復興が進み、被災の形跡は少なくなっています。被災地の現状があまり伝わっていないようなのです。

やはり、震災直後に比べると石巻が全国的メディアに取り上げられることが少なくなっており、その影響が大きいと思いました。

ですから、東洋学園大学の学生に石巻が思った以上に復興している事実を伝えられただけでも、今回の「ほえ～るかふえ」は大分意義があるものだと思えました。

この一日を通して、復興のヒントは街の歴史の中に隠されている事を学ぶことができました。

(吉城翔太郎)



東京駅で参加者の皆さんと

復興ゆかいの地を巡る東京ツアー

東京で一泊した私たちは、12月16日(日)朝から、東洋学園大学学生の方の企画・案内による「復興ゆかいの建造物・施設等をめぐるツアー」に参加しました。

ここで言う復興とは、大正12年の関東大震災等からの復興のことです。

今回のツアーは、午前中に東京駅を見物してから隅田川を水上バスに乗り移動。午後は浅草を観光した後、秋葉原とアメ横のグループに分かれ、それぞれのグループで行動するというスケジュールでした。

東京駅は最近まで丸の内方面のいわゆる赤レンガの駅舎が改装の工事を行われていました。この改装で東京駅は開業当初の姿が復元されて、多くの人が見物に訪れていました。

東京駅の屋根には石巻市の雄勝で生産されたスレートと呼ばれる素材が使われています。駅の地下には、屋根と同じ雄勝石のスレートを使ったアートが展示されています。また、開館後間もない東京ステーションギャラリーの案内をしてもらいました。

東京駅を後にして今度は東京港の「日の出客船ターミナル」から水上バスに乗りました。港から隅田川を通過して浅草を目指します。水上バスは隅田川に架かる10本の橋をくぐります。10本の橋の内、新大橋を除く9本は関東大震災の復興橋梁として建設されました。

水上バスを降りると、そこからは完成したばかりの東京スカイツリーを近くに見ることが出来ました。ここからは歩いて、浅草の街を見物しました。浅草寺の大きな提灯をくぐり、仲見世に入りました。有名な観光地である浅草寺周辺はやはり人が多く、少し歩くだけでも時間がかりました。

ここからアメ横行きグループと秋葉原行きグループとに分かれてまちを歩き、最後にもう1度東京駅に集まって、このツアーは終了しました。

この日は、東洋学園大学や東京の専修大学の方に任せ切りで、私たちは「お客様」として案内してもらいました。案内のためにいただいた手づくりのガイドブックはイラストと写真入り10ページにも及ぶもので、名所と橋の歴史的由来が詳しく書いてあり、感心しました。

将来、石巻が復興した時に、私たちも石巻の「復興ゆかいの地を巡るツアー」を企画し、東京の学生を案内できればと思います。

(菊池駿)

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

E-mail senshu-maruoka@inter7.jp